

「EU 拡大の現段階 2010 年「拡大戦略」および「進捗報告」を中心として」

筑波大学  
東野篤子

本報告では、「EU 拡大の現段階 2010 年「拡大戦略」および「進捗報告」を中心として」というタイトルで、EU 拡大の現状について分析を行った。具体的には、「拡大プロセスの現状」、「拡大プロセスをめぐる 3 つの全般的特徴」、「2009 年までの突出した問題」などについて簡単に紹介を行ったあと、欧州委員会が 2010 年 11 月 9 日に発表した「拡大戦略と主な挑戦 2010-2011」(本報告では「2010 年戦略」と記載)および各国向け「進捗報告」等の一連の文書の概要を紹介した。これらの文書は毎年かなりの分量を伴って発表されるため、その内容をその都度コンパクトに紹介していくことは、拡大プロセスの現段階のタイムリーな理解に資するものと考えられるため、本報告ではこれら文書の概要紹介に意識的に時間を割いた。そのうえで、拡大の問題点と展望について考察し、報告を締めくくった。

本報告の最大の成果としては、主に文書分析である本報告をベースとしつつ、拡大の全般的な状況についてフロアとの意見交換が可能となったことが挙げられる。とくに、かつて EU 拡大の文脈で頻繁に言及された「吸収能力(absorption capacity)」概念をめぐる質問を慶應義塾大学田中俊郎教授からいただき、同概念の変遷(および消滅)をめぐる議論を行うことができたことは大変有意義であった。

今後の研究課題としては、現在膠着中の二国間問題、とりわけトルコ対キプロスおよびギリシャ対マケドニアの対立関係が拡大プロセス全体に与える影響についての分析、アルバニアおよびモンテネグロの加盟候補国認定問題の帰結、欧州委員会の拡大へのアプローチなどを含めた現行の拡大と第 5 次拡大との詳細な比較など、多岐にわたる。また、報告者は現在特にトルコの EU 加盟問題に関心を有しているが、今回の報告の対象となった一連の文書がトルコ加盟問題に長期的にどのような影響を与える可能性があるのかについても考察してみなければならない。今回の研究会報告の機会を生かし、これらの課題に取り組んでいきたいと考えている。